

預言におけるイスラエル、年代順

CJF ミニストリーズ、リチャード・ヒル博士

導入

シャローム。私たちをお迎えくださり、アリスティア牧師と大阪インターナショナルチャーチの皆さまに感謝いたします。妻のオアンと私は、皆さまの交わりに加わられて光栄です。そして、今日、教えの機会をくださった主をたたえます。ユダヤ人の方に向けた私たちの働きをご支援くださりありがとうございます。私たちは、25年余り、ユダヤ人の方々に福音を分かち合い、仕えてきました。この19年間は、米国ラスベガスに住んでいます。ラスベガスには、ユダヤ人が8万人暮らしています。その全員にイエスの福音をお伝えすることを目指しています。その方法はいくつかあります。CJF ミニストリーズの宣教師として、複数の伝道師を育成し、ともにラスベガス大学やラスベガス市内にあるすべてのショッピングモールに出かけます。そこで、ユダヤ人の人たちを見つけて、イエスについてお話しします。妻のオアンは、療養施設にダビデダンスのチームを引率し、そこでユダヤの賛美歌に合わせて踊ります。それから、高齢者にイエスについてお話しします。また、教会や個人にも、ユダヤ人に対してどのようにイエスを分かち合えばよいか教えます。私は、ユダヤ人教会のメシアニック牧師でもあります。教会名は「ベツ・イエシュア」で、「イエスの家」という意味です。まだ救われていないユダヤ人の人たちを礼拝に招いて、イエスのことをお伝えします。

19年間宣教師として奉仕した中で、私たちは1,200人以上の人々を主に導きました。その1,200人のうち、67人がユダヤ人です。ユダヤ人にユダヤ人的な方法で福音を分かち合うと、多くの異邦人が救われます。これは真実です。というのも、救い主イエスの愛をユダヤ人に分かち合うことに焦点を合わすとき、主がその働きを祝してくださるからです。まずユダヤ人に福音を分かち合えば、祝されます。

私たちは常に、個人的な必要と働きの必要を覚えてともに祈ってくださる祈りの支援者を求めています。私たちのために祈るよう主に示されたら、後ろの書籍テーブルでメールアドレスを登録してください。祈りの課題を定期的にメールでお送りします。または、フェイスブックページ (@bethyeshualv)でもつながれます。

では、「預言におけるイスラエル、年代順」の学びに入りましょう。神は、ユダヤ人のために偉大なご計画をお持ちです。そのご計画には、約束の地に民を連れ帰ること、患難の時代というかたちでのさばき、患難の時代の終わりにある救い、そして最後に、ユダヤ人の救い主イエスが王として統治され、平和にイスラエルの地で暮らすという最終的な回復が含まれます。

今日のメッセージのタイトルは、私の新しい著書の題名そのままです。この本では、イスラエルに関わるほとんどの預言を年代順に並べています。巻末には、「預言におけるイスラエル」一覧があり、本のあらすじとなっています。

この本は、書籍テーブルで販売しています。また、無料のトラクトや冊子もありますので、ユダヤ人や異邦人への伝道にお使いください。

では、今日の学びのあらすじをお話しますので、一覧の左から右へと順を追ってご覧ください。最初の欄は「現在のイスラエル」です。現在のイスラエルで何が起きているかを知っておくと、世界がイスラエルを将来的に完全に滅ぼそうとする理由がわかります。

次の欄は、エゼキエル戦争です。これは、ゴグ・マゴグの戦い1とも呼ばれます。これは、ロシアとその同盟国がイスラエルを攻撃する戦争です。預言で次に起こるのは、新世界秩序です。新世界秩序とは、ローマ帝国の再来です。エゼキエル戦争に参加した邪悪な同盟国軍が減った後に、ローマ帝国が再興すると私は考えています。

新世界秩序と10の王国の形成過程で、患難前の携挙が起こります。それが次の欄です。これは、イエスを信じるすべての信徒が一瞬にして永遠の復活の体に変えられ、雲へと飛んで行って空中で主と会います。

携挙の後、7年間の患難時代が来ます。これは、ヤコブの苦難の時、またはダニエルの七十週目と呼ばれます。全世界が神のさばきを受けますが、イスラエルは反キリストとの条約を結び、平和のうちにこの時代を迎えます。しかし、患難時代の途中で、この和平条約は破棄されます。

患難時代の後半は、ユダヤ人に対する未曾有の大虐殺が起こり、ユダヤ人の2/3がこの地で死にます。けれども、最後にはすべてのイスラエル人は救われます。患難時代が終わると、イエスが再臨されます。そして、ハルマゲドンの戦いでユダヤ人のすべての敵を滅ぼされます。

75日間を経て、イエスが治められる千年王国が始まります。その1000年が終わると、地の奥底に捕らわれていたサタンが解き放たれ、「ゴグ・マゴグの戦い2」と呼ばれる最後の戦いで、イエスに戦いを挑みます。

この戦いですべての悪者が死んだ後、神は大きな白い御座のさばきを始められます。時代を超えてすべての悪者はさばかれ、永遠に火の池に投げ込まれます。それから主は、新しい天と新しい地を造られます。そして、新しい天から新しい地へ新しいエルサレムを送られます。新しいエルサレムが私たちの永遠の住まいです。そこでは、イエスと御父が私たちとともに住まわれ、永遠に御座に着かれます。

では、聖書の詩篇83篇1-3節を開いてください。現代のイスラエルに目を向けると、詩篇83篇は、多くの国がイスラエルの国とユダヤ人を憎むことを見事に表しています。その憎しみが止むことはありません。アサフが記したこの詩篇は、ユダヤ人に恐ろしいことをする悪者たちに対して行動を起こしてくださいという神への懇願です。(1節)

### **詩篇 83 : 1-2**

83:1 神よ。沈黙を続けしないでください。黙っていないでください。神よ。じっとしていないでください。83:2 今、あなたの敵どもが立ち騒ぎ、あなたを憎む者どもが頭をもたげています。

2節では、主の敵が「頭をもたげる」ことで神への憎しみを表しています。これは、悪者たちが主に対して自らを誇って自画自賛するということです。では、その憎しみをどのように示すのでしょうか。

### **詩篇 83 : 3**

83:3 彼らは、あなたの民に対して悪賢いばかりごとを巡らし、あなたのかくまわれる者たちに悪だくみをしています。

3節には、イスラエルの神の敵が、「あなたの民」「あなたのかくまわれる者たち」に対して悪だくみをしているとあります。神の民、神のかくまわれる者たちとは、ユダヤ人で間違いありません。

ユダヤ人は、地上の全人類から、神の民として神によって選ばれました。(申命記7:6)

### **詩篇 83 : 4**

83:4 彼らは言っています。「さあ、彼らの国を消し去って、イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」

4節を読むと、イスラエルの神の敵は、ユダヤ人の敵であることに疑いの余地はありません。「国を消し去って、イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」とまで言っていると記されています。歴史上、まさにこのように発言した狂氣的な指導者が幾度となく現れました。

### **詩篇 83 : 5**

83:5 彼らは心を一つにして悪だくみをし、あなたに逆らって、契約を結んでいます。

5節は多くを語ります。彼らは結託して、神に逆らう契約まで結びます。イスラエルの神に逆らう契約を結んだことから、主に逆らうという揺るぎない意志が現れています。彼らはこの契約によって結ばれ、主と主の選びの民に挑みます。

「主とイスラエルに挑む契約を結ぶほどに憎む国や民族は誰だろう」という疑問が湧きます。6-8節には古代における国と民族の名が記されていますので、現代名を私からお伝えします。

### **詩篇 83 : 6**

83:6 それは、エドムの天幕の者たちとイシュマエル人、モアブとハガル人、

6節には最初にエドムとあります。エドムはエサウのことで、彼は、死海の南東に移り住みました。現代のヨルダン南西部です。ヨルダンは1994年にイスラエルと和平条約を結び、現在に至るまでユダヤ人との和平を維持しています。しかし、1994年以前は、何度もイスラエルを攻撃していました。

しかし、和平条約は簡単に破棄されます。次に記されているのはイシュマエル人です。イシュマエルは最終的にアラビアに移り住みました。現代のサウジアラビアです。サウジアラビアは、イスラエルとエジプトの和平条約に加わる意向を示していると言われています。

モアブは、死海の東、エドムの北に住みました。現代のヨルダン中西部です。ハガル人は、ハガルの子孫です。ハガルはエジプト人でした。エジプトは現在、1979年にイスラエルと結んだ和平条約を守っています。しかし、和平条約は簡単に破棄される可能性があり、エジプトは過去70年間で何度もイスラエルを攻撃しました。

### **詩篇 83 : 7**

83:7 ゲバルとアモン、それにアマレク、ツロの住民といっしょにペリシテもです。

7節も引き続き、ユダヤ人の敵を列挙します。ゲバルは、レバノン沿岸部です。ゲバルはレバノンを象徴します。イスラエルは、2006年にヒズボラと交戦しました。イスラエルは現在、レバノンとの戦争に備えています。また、シリアとイランとの戦争の可能性にも備えています。

アモンは、モアブの北に住んでいました。現代では、ヨルダン北西部です。ですから、現代のヨルダン川西岸全域が、主とイスラエルの敵として挙げられています。つまり、ヨルダンの国全域を指します。アマレクはユダとエジプトの間に住んでいました。現代では、シナイ半島と呼ばれる地域です。シナイ半島はエジプトです。

ペリシテは、カナンの南西端に住んでいました。現代ではガザ地区と呼ばれる地域です。この小さな地域に住む人々が、ユダヤ人を憎む敵となり、イスラエルを攻撃するようになるというのは興味深い点です。

これは現代まさに起こっていることです。ハマスとパレスチナは境界フェンスの向こうからイスラエルを攻撃しています。ガザ地区がイスラエルの悩みの種でありつづけることをこのみことばが示していると思います。近代史がそれを裏付けています。

ツロはレバノンの南海岸の町です。ツロは現代では、レバノン第4の都市です。ゲバルがレバノンを象徴したのと同様、ツロもレバノンを象徴します。

### **詩篇 83 : 8**

83:8 アッシリヤもまた、彼らにくみし、彼らはロトの子らの腕となりました。 セラ

最後に、アッシリヤが8節で登場します。アッシリヤは、メソポタミア上流のチグリス川沿岸に位置します。

現代では、イラクとシリア東部となります。2003年の第二湾岸戦争終戦後、イラクは以前にも増して過激派イスラムとなりました。イランが政府に潜入しており、クリスチャンを常に迫害しています。

詩篇83篇は、特定の戦争について語っていると考えるクリスチャンもいますが、この詩篇の文脈は、ユダヤ人に対する憎しみと暴挙は現代にまで継続していることを示します。イスラエルが国となった過去70年だけを見ても、詩篇83篇で示された国のすべてが、何らかのかたちでイスラエルに戦いを仕掛けてきました。

現在、アラブ諸国の戦いがイスラエルを悩ましていますが、地上で次に起こる預言された未来は、エゼキエル戦争だと考えます。では、エゼキエル書38章10-12節を開いてください。エゼキエル戦争は、ハルマゲドンの戦いとは異なります。また、患難時代の前半に起こる世界大戦でもありません。エゼキエル戦争は、いつ始まってもおかしくない戦争です。そして、私たちクリスチャンはそれがまもなく始まるのを目の当たりにすることになるでしょう。話を進める前に、預言された出来事で成就

の時期が差し迫っているものがふたつあることをお知らせしなくてはなりません。つまり、いつ起こってもおかしくないのです。それは、患難時代前の携挙とエゼキエル戦争です。

私は著書の中で、自分で学び、年表を自分で作るようすべての信徒に勧めています。けれども、携挙よりも先にエゼキエル戦争が起こると信じる根拠も挙げています。とは言え、その順番は間違っている可能性があることも、謙虚に認めます。携挙が先に起こってからエゼキエル戦争が起こる可能性もあります。ただ、主がエゼキエル戦争でユダヤ人の敵国を滅ぼされるときに、主が全宇宙の唯一の神であり、イスラエルの神であられることを全世界に知らしめることを望まれると私は思うのです。全世界には、私たちクリスチャンも含まれます。神が奇跡を起こして働かれるのを、私たちが見るのを神は願われると思うのです。

エゼキエル 38 : 1-6 には、古代の名で呼ばれるいくつかの国が登場します。この古代名から現代名を割り出すには議論がありました。正しいという確信をもってその国々をすべて割り出すのは簡単ではありません。けれども、私は最善を尽くしました。この個所で示されている国は、ロシア、イラン、スーダン、リビア、トルコだと考えます。これらの国々は、イスラエルとユダヤ人を憎んだ過去があります。このうち、イスラム教国である 4 か国は、過去 70 年間に何度もイスラエルを攻撃しました。近い将来、これら 5 か国が同盟を結んでイスラエルを攻撃しますが、その目的はイスラエルを滅ぼすことではありません。

### **エゼキエル 38 : 10-11**

38:10 神である主はこう仰せられる。その日には、あなたの心にさまざまな思いが浮かぶ。あなたは悪巧みを設け、

38:11 こう言おう。『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』

ここで、悪い国々がイスラエルに対して悪だくみをしていることがわかります。そうやって攻め入る理由は 12 節に記されています。

### **38 : 12**

38:12 あなたは物を分捕り、獲物をかすめ奪い、今は人の住むようになった廃墟や、国々から集められ、その国の中心に住み、家畜と財産を持っている民に向かって、あなたの腕力をふるおうとする。

これらの国々は、奪える限りのものを分捕るために攻め入るのです。では、何を分捕るのでしょうか。聖書は、イスラエルが家畜や金銀といった財産 (13 節) があると語ります。けれども、イスラエルには近年石油や天然ガスといった資源が見つかっています。ロシアはこれらの採掘と精製を手助けしてきました。そうです。ロシアとその同盟国は、イスラエルの利権を狙っているのです。その過程で、戦争が起こり、多くのユダヤ人が死にます。けれども、この激しい攻撃の中で理解に苦しむのは、イスラエルを援護する国がないことです。イスラエルが苦しむときに、助けてくれる国がないのです。これはたいへんなことです。米国も EU も日本もオーストラリアも、誰もイスラエルを助けません。主だけがイスラエルを守り、敵の兵士を一掃し、彼らの国に火を送ります。(39 : 6)

ここで非常に大切なことを理解しなくてはなりません。主ご自身がイスラエルを守るために来られます。それは、世界中で主が栄光を受けられるためです。この戦争は破滅をもたらすようなものです。ロシアとイランおよびその同盟国は、主のさばきによって滅ぼされます。エジプトが何千年も前に主の 10 の災いによって殺されたようにです。イスラエルの国とユダヤ人に悪だくみをする者に対する恐ろしいさばきを、世界中の人々と私たち信徒がこの目で見ると、主が強く望まれていると私は信じます。神のさばきは神の栄光を現します。(39 : 21)

現代のイスラエルに対する攻撃とエゼキエル戦争のもたらす結果については、一覧にまとめてあります。これらの戦争の結果、ユダヤ人のイスラエル帰還が劇的に増加すると考えます。イスラエルとの和平条約の話し合いも世界中で増えるでしょう。イスラエルでは、第三神殿の建設を望む声が高まるでしょう。この 3 つの傾向は、さらに強まっていくでしょう。

エゼキエル戦争が終わると、次に起こる預言の出来事は、新世界秩序の形成です。ロシアとイランおよびその同盟国の崩壊により、世界は精神的なショックを受けています。

この時に、世界中で、世界を統治する世界統一政府が必要だと考えるようになると思います。また、イスラエルとの和平条約を結ぶことにも好意的になるでしょう。最近のニュースによると、国連が 2030 年までに世界統一政府の樹立を望んでいるということです。たった 11 年先です。そして、国連は

目標を達成しようと計画を練っているのです。想像してみてください。イスラエルの神ご自身がロシアとイランおよびその同盟国を滅ぼされるのを世界中が目撃しました。それなら、なんとかイスラエルの神をなだめて、自分たちの国が滅ぼされないようにしようと考えerでしょう。世界統一政府とイスラエルとの和平条約は、イスラエルの神を世界がなだめるのに役立つと彼らは考えます。

では、ダニエル書 7 章 23-24 節を開いてください。この個所では、夢に出てきた第 4 の獣について質問したダニエルに、御使いが答えています。ダニエルは 4 つの獣を夢で見ましたが、その獣はそれぞれ 4 つの異邦人の国を象徴していました。その 4 か国はいずれ、世界とイスラエルを支配します。御使いは、第 4 の獣であるローマ帝国の再興について語ります。

### **ダニエル 7 : 23-24**

7:23 彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。』

7:24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

23 節は、ローマ帝国の再興を語ります。これは、これまでにあった数々の帝国とは異なり、これまでの帝国以上に不実で横暴だと言います。24 節は、このローマ帝国のもうひとつの違いを示します。新世界秩序が始まった後に、それが 10 の国に分かれます。（「この国から立つ十人の王。」）

まとめると、新世界秩序がまず樹立され、そこからこの 10 の国が形成されます。ローマ帝国の歴史では、帝国は東西のふたつにしか分かれていません。過去の歴史では、ローマ帝国は 10 の国に分かれたことがないのです。けれども、そのように預言されていますから、預言が成就するためには、ローマ帝国が必然的に再興しなくてはなりません。ロシアとイランおよびその同盟国が神に滅ぼされたときこそ、ローマ帝国再興の絶好のチャンスです。ローマ帝国が 10 の国に分かれると、それから患難時代の前半に反キリストが軍事力を持ちます。そして、10 の国のうち 3 つの国と戦い、征服します。そして、患難時代の中期までには、反キリストが世界の覇権を握ります。

新世界秩序と 10 の国の形成中に、患難前の携挙が起こると信じています。この携挙は、教会史最大の出来事です。すべての信徒はこの地上から引き上げられ、雲の中で主とお会いしてから天国に行き、イエスの再臨の時までそこにいます。携挙は、7 年の患難時代の前のいつかの時点で起こります。

では、ダニエル書 9 章 24-27 節を開いてください。これは、ダニエル書でも有名な預言で、ユダヤ人とエルサレムの町の「七十週」に関する個所です。

### **ダニエル 9:24**

9:24 あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。

神は御使いガブリエルを遣わし、ダニエルに幻を理解させました。

「七十週」が、ユダヤ人と聖なる都つまりエルサレムに定められています。それは、6 つの預言的な出来事がなされるためです。「七十週」は、490 年を指すと解釈されています。「週」は 7 年間を指します。この個所を大まかに説明すると、ユダヤ人とエルサレムに合計 490 年間の預言的な期間が与えられていて、この間に 6 つの預言的な出来事が成就するのです。さてこれは、教会に対する預言でしょうか。それとも、米国、日本、ロシア、イラン等、他の国に対する預言でしょうか。違います。この預言はイスラエルとユダヤ人だけに与えられた預言です。ここからわかるのは、主が患難時代に世界をさばかれる間、イスラエルの地に注目なさるということです。

### **ダニエル 9 : 25-26**

9:25 それゆえ、知れ。悟れ。引き揚げてエルサレムを再建せよ、との命令が出てから、油そそがれた者、君主の来るまでが七週。また六十二週の間、その苦しみの時代に再び広場とほりが建て直される。

9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

25-26 節で、「六十九週」または 483 年はすでにイエスのご降誕によって成就したことが解ります。イエスは、そむきと罪を取り除き、咎を贖うために、十字架で死なれました。イエスは十字架上で死に、3 日後によみがえられました。それは、私たちが罪から救われ、永遠のいのちを得るためです。罪を悔い改めて、イエスを救い主と信じるなら、それが可能になります。

ですから、「六十九週」または 483 年間はイエスのご降誕によって成就されました。けれどもひとつ問題があります。これでは「一週」または 7 年間足りないのです。27 節をご覧ください。ここに、ダニエルの七十週目と呼ばれる最後の 7 年間について記されています。これは、将来起こる 7 年間の患難時代についてです。その期間、反キリストが全世界を支配します。覚えておいてください。これは、黙示録に詳しく記されているのと同じ患難時代です。

### **ダニエル 9 : 27**

9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

27 節の「彼」は反キリストを指します。そして、反キリストは 7 年間、多くのユダヤ人と平和条約を締結します。この平和条約を、イスラエルは強く希望します。世界との平和、ムスリム、アラブ人、ペルシャ人との平和を強く求めるのです。ここで言及されている患難時代は、ユダヤ人に対するヤコブの苦難の時と呼ばれます。なぜでしょう。イスラエルがあらゆる苦難に遭うからです。患難時代の後半には、最後のホロコーストが起きます。

何千年もの間、ユダヤ人は何度も大虐殺の標的にされてきました。その最たるものは第二次世界大戦中にナチスが 600 万人のユダヤ人をユダヤ人だという理由だけで殺したことです。なぜこれほどまでにいわれのない虐殺の標的にされてきたのでしょうか。

単純に、世界中の人も国もユダヤ人を憎むからです。反ユダヤ主義は世界中で高まりを見せていますが、世界中でもユダヤ人人口がもっとも多い米国でその傾向が強まっていることには衝撃を受けません。反ユダヤ主義者によるユダヤ人に対するテロ攻撃が多数起こっています。ピッツバーグでは、シナゴグの乱射事件で 11 人のユダヤ人が殺されました。最近では、ラスベガスでネオナチの若者が、私たちの教会ではありませんが、イエスを信じるユダヤ人の教会に対する攻撃を企てていました。幸い、この男は犯行に及ぶ前に FBI に逮捕されました。このように、反ユダヤ主義は世界中で高まりを見せています。それは、皆さんの祈りとご支援を私たちが必要としている理由のひとつです。

まだ疑問が残っています。現代、世界はイスラエル擁護に乗り出すでしょうか。それとも、イスラエルと戦略的に敵対し、聖書に記されたとおりの終わりの時代のシナリオへと進んでいっているのでしょうか。

27 節には、反キリストが神殿でのいけにえとささげものをやめさせるともあります。そして、「荒らす忌むべきもの」を行います。これは、神殿で自らを神とすることです。これは、主とユダヤ人にとって忌むべきものです。彼は、世界中のユダヤ人と異邦人が彼を拝むよう強制します。テサロニケ第二 2 : 3-4 は、不法の人、すなわち滅びの子が神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言すると語ります。これは、反キリストのことです。

それから、地上の地獄の扉が開き、最悪の大虐殺がユダヤ人だけでなくすべての人々に襲い掛かります。このときに、イスラエルにいる 3 分の 2 のユダヤ人が死にます。（ゼカリヤ書 13 : 8-9）イエスはこれをマタイ 24 章で確認しておられます。ここから、666 のしるしが与え始められます。反キリストとサタンを信奉する者はこのしるしを受け、世界中で物品の売買ができます。このしるしを受けない人は、首をはねられて死にます。

患難時代の終盤、イエスの再臨の直前には、イスラエルにいるユダヤ人に素晴らしいことが起こります。ローマ 11 : 26 は語ります。「こうして、イスラエルはみな救われる、…」患難時代を生き延びた 3 分の 1 のユダヤ人は、終わりの時のいつかの時点でイエスを主であり救い主として受け入れます。彼らは新生し、ついに救い主が治める千年王国に入ります。これこそ、すべてのユダヤ人宣教の働きが待ち望んでいることです。

患難時代が終わると、イエスが再臨されます。聖書は、主がいつ再臨されるかその時を私たちは知らないと言います。(マタイ 24 : 36) 再臨の目的は、ユダヤ人と異邦人の信徒を救うこと、ハルマゲドンの戦いで悪者と戦うこと、そして、救い主が治める千年王国を築くことです。

では、イエスの千年王国について学びますので、黙示録 20 章 1-6 節を開いてください。イエスを信じる信徒の多くは、イエスの千年王国を文字通りに受け取っていません。残念ながら多くの人は、イエスが今、ご自身の御国を治めておられると考えています。もちろんイエスは天から御父とともに今、治めておられます。けれどもそれは、アブラハムとダビデの契約の中で神が約束された千年王国ではありません。これらの契約の約束を合わせると、神はユダヤ人がユダヤ人の王イエスの権威のもと、イスラエルの地にずっと暮らすと語っておられます。これは、イエスの千年の治世によって成就します。

この王国はまだ未来のことであり、黙示録 20 章 1-6 節に記されています。この個所を読んでいく中で、皆さんにはこの個所のギリシャ語の文法にご留意いただきたいと思います。多くの動詞は直説法で使われています。これは、この個所に記された大半の内容が、明確な声明であることを意味します。ギリシャ語の文法からわかるのは、これらの記述を比喩的表現としてではなく文字通りに受け取るべきであるということです。

#### **黙示録 20 : 1-2**

20:1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から下って来るのを見た。  
20:2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、

1-2 節には、サタンが縛られ 1,000 年間底知れぬところに捕えられるとあります。これは、千年王国が続く期間と同じです。

#### **黙示録 20 : 3**

20:3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

3 節には、この 1,000 年間はサタンが諸国の民を惑わすことが許されないと語ります。これは比喩表現としてではなく文字通り受け取るべき内容で、神の真理です。

#### **黙示録 20 : 4**

20:4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

4 節は、イエスを信じたために死んだ患難時代の信徒が大いに報いを受けると語ります。彼らは、千年王国でイエスとともに統治します。ここでもギリシャ語は、これが明確な声明であることを示しています。つまり、このメッセージに隠された思惑はありません。書かれてあるとおりの意味です。

#### **黙示録 20 : 5**

20:5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。

5 節は、他の死人は 1,000 年が終わるまで生き返らないと語ります。その人たちは、受けるべき永遠の罰を後に受けます。

#### **黙示録 20 : 6**

20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

6 節は、私たちがイエスの王国で 1,000 年間イエスとともに祭司および王となると教会に宣言します。これもまた、比喩表現ではなく文字通りに受け止めるべきです。これは、神の民に対する神の明確な約束です。

千年王国時代が終わると、サタンは捕らわれていた場所から解放され、ゴグ・マゴグの戦い 2 を仕掛けます。この戦いで神がすべての敵を滅ぼされた後、世界中の悪者に最終的なさばきをくだされます。これが、大きな白い御座のさばきです。

このさばきの後、神は新しい天と新しい地を造られます。新しいエルサレムはすでに天国にあります。新しい天から新しい地へと新しいエルサレムが下ってきます。この新しいエルサレムが、私たちの永遠の住まいです。御父と御子は、新しいエルサレムの御座に永遠に着座されます。

皆さん、これが預言におけるイスラエルです。祈りましょう。

父よ、私たちはイエスの全能の御名によってあなたのみもとに行きます。どうか今、ユダヤ人の人々とともにいてください。そして今後、彼らがイエスの光を見て、救われるように助けてください。エルサレムの平安のために祈ります。また、この教会とアリストテア牧師のためにも祈ります。どうか私たち全員をあなたの御霊で満たしてください。あなたの御力によってみこころをなせますように。この教会を用いてください。あなたの御霊によって歩み、イエスの福音を多くの人々に届けることができますように。アーメン。

今日はありがとうございました。「預言におけるイスラエル、時代順」のメッセージをここで皆さんにお分かちできたことを改めてお礼申し上げます。書籍テーブルでご質問にお答えできますので、どうぞお越しください。ありがとうございます。シャローム。